

社長の陣頭指揮のもと、地震の翌日に店を開く

株式会社ダイエーポートアイランド店

1 地震発生時の対応

地震の当日17日と翌日の18日、同店舗は定休日で社員の慰安旅行の予定であった。課長の1名は西区の西神中央に居住しており、地震の当日は交通機関がストップしていたために出勤が不可能であったが、統括本部からの電話指示により、18日の深夜午前3時30分に西神オリエンタルホテルに集結した。同ホテルには九州地方からの応援第1陣の約50名が来神していた。地方からの応援は1か月にわたり、最終的には延べ約450名に達した。

当日、社長は東京にいたが、現地（三宮地区）に「復興対策本部」を設置し、かつ、会社の方針である「地域、お客さま全てのより豊かなくらしに奉仕」という主旨から、18日より営業するようとの社長指示があった。しかし、17日はビルの警備員のみで店舗関係者は出社できなかった。

18日に九州からの応援者13名と観光バスでポートアイランドの店舗に向かい、午前5時頃に税関前に到着、神戸大橋が不通のために液状化の中、約30分歩いて店舗に到着した。店舗では店長以下15名が施設の点検、店舗内の商品整理等の災害復旧作業を行い開店に備えていた。

また、人手が不足していたので、島内に居住のパートタイマーに連絡したところ、25名が集まり、総勢40名となった。当日は午前10時に開店の予定であったが、店舗前には多数の住民が列を作っており、また、営業本部の指示もあり開店を午前7時とした。開店後は住民が入店するのに5～6時間かかり、主におにぎり、水、ラーメン、缶詰等の非常食、生活必需品を中心に購入していた。

商品の供給は店舗の在庫のみでは不足であったが、島内の配送センターとバンドールから供給したために商品の不足は免れた。

2 その後の対応

19日になると社員が出勤してきた。そして「住民に不安を与えない」という方針から、お客に迷惑をかけないために販売商品を15品目に限定し、お客の待ち時間を1時間程度と短縮した。三宮の復興対策本部では商品が途切れないように努力した。社長も頻繁に各店舗を巡回して商品の適正な供給を徹底したので、店舗としてはスムーズに対応することができた。その後、神戸大橋の通行可能にともない陸上輸送が可能となった。また、飲料水はヘリコプターを活用し、島内のヘリポートから搬送した。

従業員の安否確認は、吹田市江坂と東京の人事統括本部で行い、並行して被災従業員に対する救

援活動も実施した。また、会社専属の保健婦の巡回パトロールも実施した。さらに、タンクローリーで店舗及び従業員の飲料水を確保するとともに、品質管理センターの車両が巡回し、その水の品質をチェックした。

3 教訓

- (1) 会社の防災マニュアルどおりの対応がスムーズにできた。
- (2) 加入電話が不通となったので、社内専用ホット回線の必要性を感じた。
- (3) 停電が長時間にわたったため、貴重な食料である冷凍・冷蔵食品が販売できずに住民に対して不便をかけた。